

1. 第2期札幌市スポーツ推進計画(2024~2033)の概要について

①策定(改定)時期・計画期間

- 策定(改定)時期:令和6年(2024年)10月策定
- 計画期間:令和6年度(2024年度)~令和15年度(2033年度)

②施策体系

【基本理念】

スポーツの力でまちの未来を切り拓く

目標1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち

市民誰もが、一人一人のニーズに合わせて気軽にスポーツに参加し、楽しむことで、生涯にわたって心身の健康が増進され、活力に満ちた生活を送れることを目指します。

目標2 ひととひとがスポーツでつながる共生のまち

年齢や性別、障がいの有無、国籍等を問わず、市民が多様な形でスポーツに共に参加することができおり、スポーツを通して関わり合うことで、相互に理解・尊重し合える社会の実現を見座します。

目標3 スポーツによりにぎわいがあふれているまち

多種多様なスポーツ大会が開催されるなど、世界からスポーツ都市として注目されており、国内外からスポーツ目的の人が集まることによって、地域・経済が活性化することを目指します。

2. 成果指標と目標数値

成果指標	計画策定時	実績値			目標値
	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)	R6年度(2024年度)	R15年度(2033年度)	
①スポーツ実施率	20歳以上・週1回以上	57.0%	60.2%	61.4%	70.0%
	障がい者・20歳以上・週1回以上	53.6%	59.7%	56.0%	60.0%
②ウインタースポーツ実施率	18歳~49歳・年1回以上	18.9%	20.9%	21.4%	30.0%
③直接スポーツ観戦率	18歳以上・年1回以上	32.3%	46.1%	49.3%	50.0%
④スポーツ目的の来札幌観光客数	(道外・海外)	236千人	654千人	474千人	1,000千人
⑤スマイル・サポーターズ登録者数		1,070人	1,173人	1,285人	2,000人
⑥強化指定選手に選出されるアスリートの育成数		12人(延べ)	45人(延べ)	78人(延べ)	50人(延べ)

第2期札幌市スポーツ推進計画(2024~2033)の概要 及び成果指標の達成状況、施策の実施結果について

3. 19の施策の実施結果

【R6年度(2024年度)自己評価集計(再掲を除く)】

自己評価		基準
◎	44	当初の予定通り実施できたもの
○	27	概ね予定通り実施できたもの
▲	9	予定通り実施できなかったもの又は当該事業年度時点で事業化に至っていないもの
—	3	外的要因等により実施しないこととしたもの又は規模を大幅に縮小したもの

【自己評価状況の推移(再掲を除く)】

※割合については、少数第2位を四捨五入しており、その関係で合計が100%にならない場合がある。

自己評価	前計画(札幌市スポーツ推進計画改訂版)								第2期スポーツ推進計画	
	R2年度 (2020年度)		R3年度 (2021年度)		R4年度 (2022年度)		R5年度 (2023年度)		R6年度 (2024年度)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
◎	19	22.4%	22	25.9%	32	37.6%	39	45.9%	44	53.0%
○	40	47.1%	40	47.1%	39	45.9%	36	42.4%	28	33.7%
▲	1	1.2%	1	1.2%	6	7.1%	8	9.4%	8	9.6%
—	25	29.4%	22	25.9%	8	9.4%	2	2.4%	3	3.6%
◎及び○の割合	69.4%		72.9%		83.5%		88.2%		86.7%	
◎及び○の割合 (分母から—を除く)	98.3%		98.4%		92.2%		90.4%		90.0%	

○実施結果について

※詳細は参考資料を参照

- ・計画初年度であるR6年度については、計画に記載されているもののうち、約9割の事業について予定通りまたは概ね予定通り実施することができたと考えている。
- ・一方で、当初の予定通りに実施できなかったものも1割程度あり、今後の計画の達成に向けて検討、見直しを行っていく必要がある。

《▲: 予定通り実施できなかった事業(8事業)》

■目標数値に達しなかった事業

- 1 健康づくりセンターにおける健康づくり事業(健康度測定)
- 2 雪かきチョボラ、雪遊びチャレンジ
- 3 スポーツ施設整備費補助事業
- 4 国際競技大会や事前合宿等の誘致(地域スポーツコミッション事業)
- 5 ウンタースポーツ観戦文化醸成(ウインタースポーツ普及振興事業)
- 6 スノーリゾート推進事業

■計画等の遅れにより令和6年度に実施できなかった事業

- 1 総合型ハイパフォーマンススポーツセンター誘致事業
- 2 障がい者スポーツセンター調査検討事業

第2期札幌市スポーツ推進計画(2024~2033)の概要 及び成果指標の達成状況、施策の実施結果について

4 成果指標と目標数値の状況

(1)ー① スポーツ実施率(20歳以上、週1回以上)

〈現状〉

- ・H30年度から概ね横ばいで推移してきたが、直近2年(R5、6年度)は、上昇傾向にある。

〈分析〉

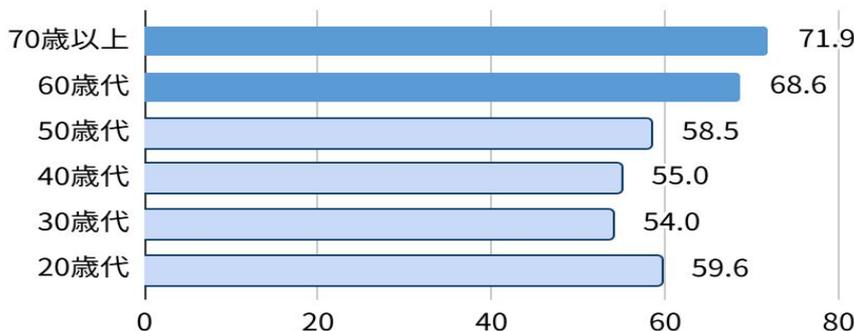
(1) 年代別スポーツ実施率

- ・仕事や育児等に忙しいと想定される20~50歳代の実施率はいずれも50%台。60歳代以上の実施率が高く、全体の実施率を押し上げている状況。

(2) 種目別スポーツ実施率

- ・ここ2年間では「ウォーキング・散歩」「トレーニング」といった一人で気軽にできる運動の実施率の上昇が大きい。
- ・健康志向の方が増えたことが、全体のスポーツ実施率が上がった要因の一つとして考えられる。

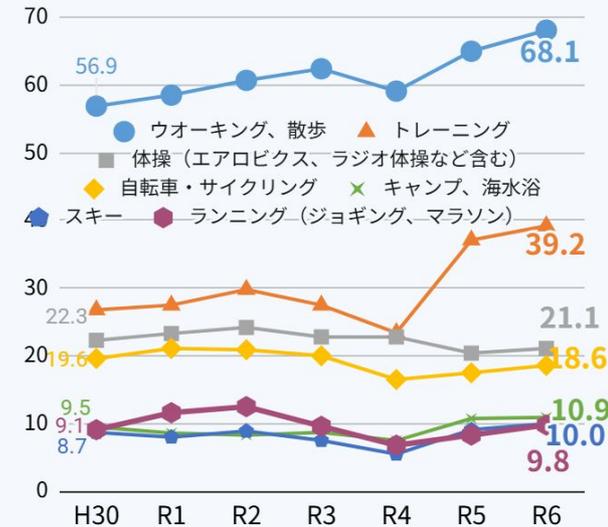
【年代別スポーツ実施率(R6年度)】



【スポーツ実施率(週1回以上)】



【種目別スポーツ実施率(年1回以上)】



(1)ー② スポーツ実施率(障がいのある方・20歳以上、週1回以上)

〈現状〉

- ・一昨年度(R5年度)から比べると実施率が減少したものの、過去2番目に高い実施率となっている。
- ・国とは調査方法が異なるため一概には言えないが、国の実施率と比較すると高い水準を保っている。

(参考) 国: インターネット調査会社が保有するリサーチモニターに対するインターネット調査
札幌市: 障がい者手帳を保有する18歳以上の市民に対する郵送調査

〈分析〉

- ・一昨年度(R5年度)に障がい者スポーツ実施率が上昇した要因の一つとして新型コロナウイルスが「5類感染症」に移行したことによる反動が考えられる。
- ・比較的高い実施率を保っている要因としては、障がい者スポーツ専用の学校開放(市立札幌みなみの杜高等支援学校)や、優先利用できる学校開放の増加、その他各区体育館や大型商業施設パラスポーツ体験会など、これまでの取組が、一定程度効果として表れているものと考えられる。

【障がい者スポーツ実施率(週1回以上)】



※国はH30年度調査未実施

第2期札幌市スポーツ推進計画(2024~2033)の概要 及び成果指標の達成状況、施策の実施結果について

(2) ウィンタースポーツ実施率(18~49歳、年1回以上)

〈現状〉

- ・H30年度以降、計画の成果指標である18~49歳の実施率は20%前後でほぼ横ばい。

〈分析〉

- ・通常のスポーツ実施率と異なり、40歳代以下の実施率が高い。
- ・全体的なウィンタースポーツ実施率が伸び悩んでいる要因として、「寒い」「用具が高い」「施設が遠い」といった実施に当たったハードルの高さが考えられる。

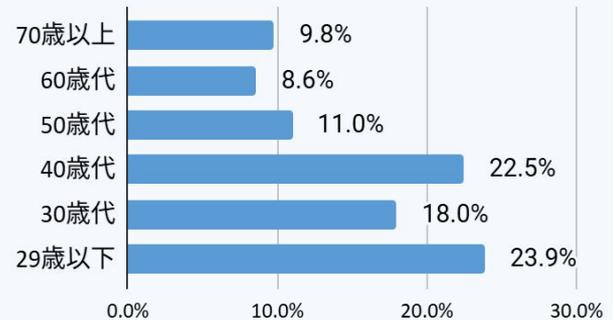
(参考)年1回以上ウィンタースポーツをしている人のスポーツ実施状況

- ・ウィンタースポーツを行っている人(18~49歳)のスポーツ実施率(週1回以上)は58.1%で、18~49歳全体の実施率55.6%より若干高い程度
- ・ウィンタースポーツを行っている人は、ほぼ全ての人が、ウィンタースポーツ以外の何らかのスポーツを実施している。

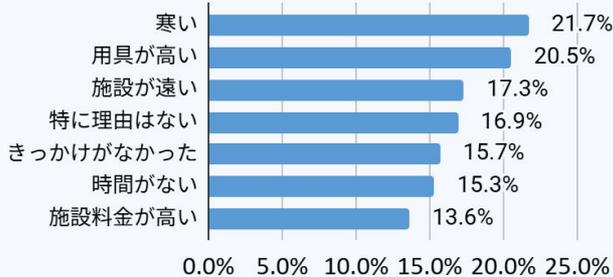
【ウィンタースポーツ実施率(年1回以上)】



【年代別ウィンタースポーツ実施率】



【参考:ウィンタースポーツを実施しない理由】



【参考:年1回以上ウィンタースポーツをしている人のスポーツ実施状況】

R6実施状況	スポーツ実施率(週1回以上)	ウィンタースポーツ以外のスポーツを実施(年1回以上)している人の割合
ウィンタースポーツを実施している人(18~49歳)	58.1%	98.6%
18歳~49歳全体	55.6%	-

※令和4年度札幌市民の運動・スポーツ活動等の実態調査結果より

(3) 直接スポーツ観戦率(年1回以上)

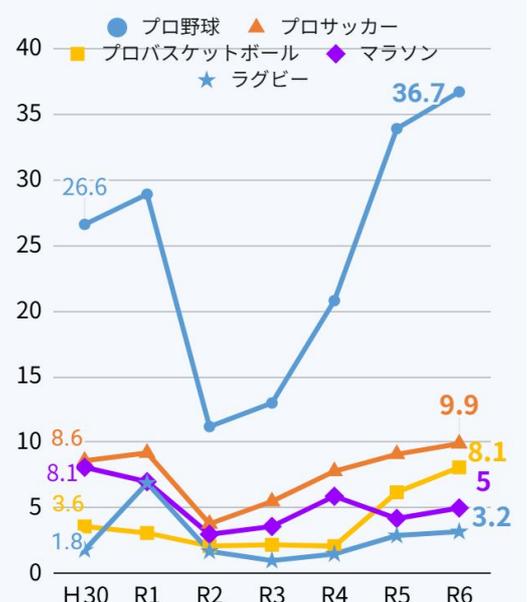
〈現状・分析〉

- ・新型コロナウイルスの影響で、R2年度以降は従前からほぼ半減していたが、制限の緩和等により観戦率が回復したものと考えられる。
- ・種目別で見ると、プロ野球が突出して観戦率が高い。また、ここ2年間ではプロバスケットボールの観戦率が上昇している。

【直接スポーツ観戦率(年1回)】



【種目別直接スポーツ観戦率(主なもの)】



第2期札幌市スポーツ推進計画(2024~2033)の概要 及び成果指標の達成状況、施策の実施結果について

(4) スポーツ目的の来札観光客数(道外・海外)

〈現状・分析〉

- ・R6年度はR5年度と比べて全体の来札観光客数は伸びているもののスポーツ目的での観光客数は減少している。
- ・スポーツ目的の海外観光客数が伸びた一方で、道外観光客の落ち込みが大きかったことが要因。
- ・道外観光客のスポーツ目的の割合に変動が大きく、指標を図る上での基礎数値として適正であるかどうかも含め、今後注視する必要がある。

【(参考)来札観光客数全体】



【スポーツ目的の来札観光客数】



【スポーツ目的の割合】



(5) スマイル・サポーターズ登録者数

〈現状・分析〉

- ・計画を策定したR4年度から、想定していた年間100人増を達成できている状況
- ・ホームページや会報誌による周知や市内大学との連携によるスポーツボランティアに関する講演などの取り組みの効果が要因として挙げられる。
- ・一方で、登録者数のうち、実際にボランティア活動に取り組む人数(R6実績:486人)についても注視が必要

【目標値: 2,000人】



(6) 強化指定選手に選出されるアスリートの育成数 (※)

※札幌市と札幌市スポーツ協会が取り組んでいる、札幌ジュニアアスリート発掘・育成事業の育成選手から、強化指定選手に選出されたアスリート数

〈現状・分析〉

- ・R5年度に強化指定選手が急増しているのは
 - ①新型コロナウイルスの落ち着いたことによりジュニア大会が全国各地で再開され、強化指定選手への選出機会が増加したこと
 - ②R2年度から開始したアスリート発掘・育成事業によりジュニアアスリートの育成が進んだことが要因として考えられる。
- ・既に目標値である50人を超えており、計画の中間見直しにおいて目標値の再検討が必要。

